

**井上友一 内務官僚。地方行政を担当し、社会福祉事業の端緒を開く一方、神社行政推進の中核を成した。**

いのうえともいち

廃藩置県・1871 = 加賀国金沢で、藩士井上盛重の長男に生まれる。

**明治6年政変** 1873 = 2歳 :

..... 1880 = **9歳** :

**明治14年政変** 1881 = 10歳 :

**帝国憲法発布** 1889 = **18歳** : 第四高等中学校から、帝国大学法科大学に進み、

郡司千島探検 1893 = 22歳 : **帝国大学法科大学を抜群の成績で卒業し、内務省県治局に勤め、以後、地方行政に取り組む。**

**日清戦争始**・1894 = 23歳 :

子規句歌革新 1898 = **27歳** :

**ビア**国産化・1900 = 29歳 : **パリで開かれた万国公私救済慈善事業会議に出席、その途次、欧米の地方自治の実状を視察し、富国強兵の一環として感化救済事業の必要性を痛感、**

**日露戦争終**・1905 = 34歳 : **報徳会創設に参加。**

日露戦争後、**国家の要請に応え得る強力な市町村として行くべく、地方改良運動を推進し、**

**韓国反日暴動** 1907 = **36歳** :

**アララギ** 創刊・1908 = 37歳 : **\*第一回感化救済事業講習会を開催し、{中央慈善協会}を創設。第二代神社局長となり、**

**伊藤博文暗殺** 1909 = 38歳 : **\*主著「救済制度要義」「自治要義」、論文「列国ノ形成ト民政」。論文「都市行政及法制」で法学博士の学位を取得。第一回地方改良事業講習会を開催、**

大逆事件判決 1911 = 40歳 : **この年までに5回開催して、町村の中堅人物育成に努める。**

**明治天皇没**・1912 = 41歳 :

この間、神社行政を推進すべく、立て続けに論文を発表し、

21ヶ条要求・1915 = 44歳 : **明治神宮造営局長を兼任後、東京府知事に転任。**

民本主義・1916 = **45歳** :

本格政党内閣 1918 = 47歳 : **\*米騒動の際、公設廉売市場・簡易食堂などを開設して、救済保護事業の端緒を開くなどしたが、**

**ベルサイユ条約**・1919 = 48歳 : **渋沢栄一らと会食中、急逝した。**